施策の評価シート（令和５年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	01	子どもたちの未来が輝くまちづくり		
		基本政策	02	子どもたちの生きる力を育み成長を支える環境の充実	管理コード	010205
		施策	05	健やかな育ちへの支援	本冊ページ	50
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画			
担当部局			健康福祉部、教育委員会			
施策の内容（番号）			021	～	025	

2　「施策の内容」の総合評価と今後の方向性

番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価 選択区分	今後の方向性 選択区分	担当課
021	すべての子どもが健やかに育つ環境整備のための支援ネットワークを形成し、一元的な相談窓口機能や支援体制を強化するとともに、民間団体の活動を支援します。	A	①	教育研究支援課/生涯学習課
022	関係機関、団体等の連携により、児童虐待の早期発見・早期対応を図るとともに、保護者の育児疲れや不安を軽減し、孤立を深刻化させないよう支援を行い、未然の防止に努めます。	A	①	教育研究支援課
023	発達に心配のある子どもへの支援に携わるさまざまな専門職のスキルアップと連携を図るとともに、発達に関する総合的な専門相談窓口の充実や体制の整備、早期支援のための療育の充実を図り、学校においては、関係機関との連携を強化するとともに、教職員の特別支援教育に係る専門性の向上に取り組みます。	A	①	教育研究支援課
024	総合的・計画的な青少年の健全育成対策に向けて、青少年育成団体の活動を支援することに加え、青少年や保護者が気楽に相談できる相談業務を充実するなど、青少年の健全育成を推進します。	A	①	生涯学習課
025	放課後における子どもたちの安全で安心な居場所を確保するため、放課後児童クラブの未設置校区への整備や、狭あい化・老朽化した施設の改修、支援員等の確保や指導力の向上、運営支援などに取り組むとともに、民間事業者による放課後児童クラブの設置を適切に支援することに加え、地域の状況やニーズに合わせて放課後子供教室を設置します。	A	①	生涯学習課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3　「施策」の総合評価

	区分	選択区分	総評（施策の進捗状況や効果等を端的に記載）
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	A　80点以上 B　60点以上80点未満 C　40点以上60点未満 D　20点以上40点未満 E　20点未満	A	スクールカウンセラーや学級支援サポーターを計画通りに配置することで児童・生徒のカウンセリングや教職員及び保護者に対する助言・援助等を行うとともに、放課後児童クラブの運営支援及び計画的な施設整備並びに放課後子供教室の開催などによって、安全で安心なこどもの居場所を確保することで、健やかな育ちへの支援を実施しました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A	A				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	01	子どもたちの未来が輝くまちづくり		
		基本政策	02	子どもたちの生きる力を育み成長を支える環境の充実	管理コード	010205021
		施策	05	健やかな育ちへの支援	本冊ページ	50
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			健康福祉部、教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			021	すべての子どもが健やかに育つ環境整備のための支援ネットワークを形成し、一元的な相談窓口機能や支援体制を強化するとともに、民間団体の活動を支援します。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効：事業の実施により直接的に表れる効果		◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰：誰のための事業か		◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何：何のための事業か		決算額（千円）	今後の方向性	
021-1	スクールカウンセラー・学級支援サポーター活用事業	教育研究支援課	相談活動の充実を図るため、スクールカウンセラー・学級支援サポーターを配置	効	児童の問題行動等の早期発見・早期対応を図るとともに、保護者や教職員に対しても助言・援助等を行う	◆ SC5人を9校と教育支援センター1か所に配置、学級支援サポーター31人を32校に配置	◎	スクールカウンセラー5人を9校と教育支援センター1か所に配置し、児童生徒のカウンセリングや情報収集・提供、教職員及び保護者に対する助言・援助等を実施した。 また、学級支援サポーター31人を32校に配置し、児童生徒の学習活動の支援のほか、悩み相談や話し相手などの相談活動を実施した。 いずれの事業も、児童生徒の問題行動等の早期発見・早期対応に必要不可欠であり、今後も継続して実施する予定である。
				誰	児童・保護者・教職員	◇ SC5人を9校と教育支援センター1か所に配置、学級支援サポーター31人を32校に配置	◎	
				何	カウンセリングや助言等の支援を受け、不安や悩みなどと適切に向き合い行動することができる	17,942（千円）	現状維持	
021-2	子ども会育成者連合会補助事業	生涯学習課	洋上教室事業、リーダー育成研修事業、各地区の活動に対する補助	効	子どもたちが自主的に考え、行動する機会を提供することで、リーダーシップを育むことができる	◆ 津市子ども会育成者連合会が補助金を利用し各事業を行う	○	洋上教室では参加希望者数が定員を上回るほど、特に関心の高い事業となっており、洋上教室に参加した児童83名のうち、29名が年少リーダー研修会に参加することとなり、洋上教室をきっかけに他の子ども会事業への参加につなげることができた。 今後も引き続き、内容を検討しながら実施する。
				誰	市内在住の児童生徒及び青年	◇ ジュニアリーダー研修会、子ども会事業の参加者数	○	
				何	自ら考え、行動したことで、自分に自信を持ち、リーダーとして活躍できる子どもが増える	6,808（千円）	現状維持	
021-3	社会教育振興会補助事業	生涯学習課	青少年の心身の健全な育成を図り社会教育の振興に寄与する青少年野外活動センターの管理運営に対する補助	効	津市青少年野外活動センターが補助金を活用し、市民や青少年に野外活動や体験活動の場を提供することができる	◆ 青少年野外活動センターの管理運営に対する補助	◎	補助金交付を行うことで、青少年野外活動センターの管理運営を図るとともに、野外活動等の事業を実施することができ、利用状況もコロナ前まで回復した。 特に、キャンプ等の主催事業については人気が高く、緑豊かな支援環境の中で、青少年をはじめ幅広い市民の学習の場を提供することができ、今後も引き続き実施していく。
				誰	市民や青少年	◇ 利用日数、利用率	◎	
				何	野外活動や体験活動など様々な学習の場として活用する	30,417（千円）	現状維持	

施策の内容評価シート（令和5年度分）

021-4	PTA連合会補助事業	幼児・児童生徒の健全育成と地域づくりに資する団体活動に対する補助	効	津市PTA連合会が補助金を活用し、市内の幼稚園、小中学校等を単位とするPTAと連携し、PTA活動を行うことができる	◆	団体活動に対する補助	◎	補助金交付を行うことで、各部会（幼稚園・小学校・中学校）ごとの交流会や体験教室、広報紙の発行など、津市PTA連合会の活動に取り組むことができた。 活動内容についてもニーズに合わせたものに見直しをしており、事業に対する参加者の評価は高いが、加入や役員決めなどPTAに対する問題も提起されているため、今後も検証を進めていく。
			誰	市内PTA	◇	活動の回数、内容	○	
	生涯学習課		何	幼児、小中学校の児童生徒の健全育成及び教育環境整備等を図る活動がしやすくなる	3,238（千円）	現状維持		
021-5	青少年育成市民会議活動補助事業	青少年健全育成のために実施する研修会、啓発事業、各地区青少年育成組織の活動等に対する補助	効	各地区で青少年育成活動が活発に行われるようになる	◆	津市青少年育成市民会議による研修会や会議、街頭啓発を行う	○	中学生の主張や非行防止・地域安全ポスターコンクール等、青少年が健全育成について考える機会を設けた。また、大人が青少年を育てる意識を高めることを目的として研修会を実施し、市民に啓発することで効果的な事業となっている。今後も引き続き、内容を検討しながら実施する。
			誰	市内の青少年及び関係者	◇	研修や会議、啓発活動の実施回数、内容	○	
	生涯学習課		何	青少年が心身ともに健やかに育つため、また、市民総ぐるみによる青少年健全育成運動を展開するため	10,713（千円）	現状維持		
021-6			効		◆			
			誰		◇			
			何		（千円）			
021-7			効		◆			
			誰		◇			
			何		（千円）			

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）

※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	A	B	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	01	子どもたちの未来が輝くまちづくり		
		基本政策	02	子どもたちの生きる力を育み成長を支える環境の充実	管理コード	010205022
		施策	05	健やかな育ちへの支援	本冊ページ	50
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			健康福祉部、教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			022	関係機関、団体等の連携により、児童虐待の早期発見・早期対応を図るとともに、保護者の育児疲れや不安を軽減し、孤立を深刻化させないよう支援を行い、未然の防止に努めます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名 / 担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
			何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
022-1	スクールカウンセラー・学級支援サポーター活用事業	相談活動の充実を図るため、スクールカウンセラー・学級支援サポーターを配置	効	児童の問題行動等の早期発見・早期対応を図るとともに、保護者や教職員に対しても助言・援助等を行う	◆ SC5人を9校と教育支援センター1か所に配置、学級支援サポーター31人を32校に配置	◎	スクールカウンセラー5人を9校と教育支援センター1か所に配置し、児童生徒のカウンセリングや情報収集・提供、教職員及び保護者に対する助言・援助等を実施した。 また、学級支援サポーター31人を32校に配置し、児童生徒の学習活動の支援のほか、悩み相談や話し相手などの相談活動を実施した。 いずれの事業も、児童生徒の問題行動等の早期発見・早期対応に必要不可欠であり、今後も継続して実施する予定である。
			誰	児童・保護者・教職員	◇ SC5人を9校と教育支援センター1か所に配置、学級支援サポーター31人を32校に配置	◎	
	教育研究支援課		何	カウンセリングや助言等の支援を受け、不安や悩みなどと適切に向き合い行動することができる	17,942（千円）	現状維持	
022-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
022-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
022-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

022-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
022-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
022-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
022-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
022-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	A	A	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	01	子どもたちの未来が輝くまちづくり		
		基本政策	02	子どもたちの生きる力を育み成長を支える環境の充実	管理コード	010205023
		施策	05	健やかな育ちへの支援	本冊ページ	50
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			健康福祉部、教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			023	発達に心配のある子どもへの支援に携わるさまざまな専門職のスキルアップと連携を図るとともに、発達に関する総合的な専門相談窓口の充実や体制の整備、早期支援のための療育の充実を図り、学校においては、関係機関との連携を強化するとともに、教職員の特別支援教育に係る専門性の向上に取り組みます。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
023-1	特別支援学級等支援事業	教育研究支援課	特別支援学級、幼稚園に在籍する生活の介助等が必要な幼児、児童、生徒の支援を行う支援員を配置	効	支援を必要とする幼児、児童生徒が、安心安全な園・学校生活を送ることに近づく	◆ 支援員の適切な配置	◎	72校・園に特別支援教育支援員188名を配置し、幼児、児童生徒の支援の必要度等に合わせ、特別支援教育支援員を適切に配置した。 特別支援教育支援員を対象に、スキルアップ研修会等を開催し、子どもたちに関わる専門性の向上に努めた。 今後も引き続き適切な配置を行うとともに、より適切な支援を行えるよう、研修会等の取組を進める予定である。
				誰	支援を必要とする幼児、児童生徒	◇ 支援を必要とする児童等が在籍する72校・園に特別支援教育支援員188名を配置	◎	
				何	支援を必要とする幼児、児童生徒が、適切な支援を受け、安心安全な園、学校生活を送れるようにする	255,060（千円）	現状維持	
023-2				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
023-3				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		
023-4				効		◆		
				誰		◇		
				何		（千円）		

施策の内容評価シート（令和5年度分）

023-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
023-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
023-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
023-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	A	A	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	01	子どもたちの未来が輝くまちづくり		
		基本政策	02	子どもたちの生きる力を育み成長を支える環境の充実	管理コード	010205024
		施策	05	健やかな育ちへの支援	本冊ページ	50
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			024	総合的・計画的な青少年の健全育成対策に向けて、青少年育成団体の活動を支援することに加え、青少年や保護者が気楽に相談できる相談業務を充実するなど、青少年の健全育成を推進します。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価			事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画		実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点		事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）		今後の方向性	
024-1	社会教育振興会補助事業	生涯学習課	青少年の心身の健全な育成を図り社会教育の振興に寄与する青少年野外活動センターの管理運営に対する補助	効	津市青少年野外活動センターが補助金を活用し、市民や青少年に野外活動や体験活動の場を提供することができる	◆	青少年野外活動センターの管理運営に対する補助	◎	補助金交付を行うことで、青少年野外活動センターの管理運営を図るとともに、野外活動等の事業を実施することができ、利用状況もコロナ前まで回復した。 特に、キャンプ等の主催事業については人気が高く、緑豊かな支援環境の中で、青少年をはじめ幅広い市民の学習の場を提供することができ、今後も引き続き実施していく。
				誰	市民や青少年	◇	利用日数、利用率	◎	
				何	野外活動や体験活動など様々な学習の場として活用する	30,417（千円）		現状維持	
024-2	青少年育成市民会議活動補助事業	生涯学習課	青少年健全育成のために実施する研修会、啓発事業、各地区青少年育成組織の活動等に対する補助	効	各地区で青少年育成活動が活発に行われるようになる	◆	津市青少年育成市民会議による研修会や会議、街頭啓発を行う	○	中学生の主張や非行防止・地域安全ポスターコンクール等、青少年が健全育成について考える機会を設けた。また、大人が青少年を育てる意識を高めることを目的として研修会を実施し、市民に啓発することで効果的な事業となっている。今後も引き続き、内容を検討しながら実施する。
				誰	市内の青少年及び関係者	◇	研修や会議、啓発活動の実施回数、内容	○	
				何	青少年が心身ともに健やかに育つため、また、市民総ぐるみによる青少年健全育成運動を展開するため	10,713（千円）		現状維持	
024-3				効		◆			
				誰		◇			
				何		（千円）			

施策の内容評価シート（令和5年度分）

024-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
024-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
024-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
024-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート（令和5年度分）

1　計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	01	子どもたちの未来が輝くまちづくり		
		基本政策	02	子どもたちの生きる力を育み成長を支える環境の充実	管理コード	010205025
		施策	05	健やかな育ちへの支援	本冊ページ	50
	関連個別計画		津市教育振興ビジョン後期基本計画（令和5年度～令和9年度）			
担当部局			教育委員会			
施策の内容（第2次基本計画）※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果			025	放課後における子どもたちの安全で安心な居場所を確保するため、放課後児童クラブの未設置校区への整備や、狭あい化・老朽化した施設の改修、支援員等の確保や指導力の向上、運営支援などに取り組むとともに、民間事業者による放課後児童クラブの設置を適切に支援することに加え、地域の状況やニーズに合わせて放課後子供教室を設置します。		

2「施策の内容」に係る主な事業の評価（事務事業評価）

番号	事業名	担当課	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから（実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由）
				効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
				誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
				何	何のための事業か	決算額（千円）	今後の方向性	
025-1	放課後児童クラブ運営補助事業	生涯学習課	放課後児童クラブの運営に対する補助	効	放課後児童クラブが補助金を活用し安定した運営を行う	◆ 条件を満たす全ての放課後児童クラブへの補助	◎	交付申請があった84の放課後児童クラブに対して要望通りの補助金交付ができ、補助金執行率は100%であった。今後も、国はこどもまんなか社会の実現に向けた放課後こども対策の一層の強化を図るため、予算・運用等の両面から集中的に取り組むべき方向性が示されており、当該国・県の施策である補助事業に沿って支援を行い、要望額どおりの執行率100%を目指す。
				誰	放課後児童クラブ	◇ 補助金執行率	◎	
				何	円滑な運営を図るため	927,214（千円）	拡充・充実	
025-2	放課後児童クラブ整備事業	生涯学習課	放課後児童クラブ施設の整備・新築工事（南が丘）・実施設計等（一志）	効	補助金を活用して施設整備を行うことにより、既存施設の受け入れ枠を拡大する	◆ 1か所の改修工事及び2か所の実施設計	◎	児童の受入ニーズの増加に伴い狭あい化している施設の整備を行うことにより、受け入れ枠の拡大につなげられた。 引き続き、計画的な施設整備を行うことにより、放課後等の児童が安全に、安心して過ごせる環境整備に取り組んでいく。
				誰	市あるいは民間の放課後児童クラブ	◇ 児童一人当たりの専用区画面積	◎	
				何	放課後児童クラブ施設の整備を行う	30,734（千円）	拡充・充実	
025-3	放課後子供教室支援事業	生涯学習課	放課後子供教室の実施	効	子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができる	◆ 子どもたちの安全・安心な居場所の確保、多様な体験・活動の提供	◎	地域からのニーズに応じて子供教室を開所しており、直近では令和4年度に高野尾地区に子供教室を開所した。また令和7年度からの開所を目指し育生地区の団体と協議を始めた。 今後の新規開所に関しては、地域の声を聞きながら随時検討していく。
				誰	放課後子供教室が実施されている小学校の全ての児童	◇ 放課後子供教室の数	◎	
				何	子どもたちに対する放課後の安全性が増し、また、学習や体験・交流活動を行うことができる	4,145（千円）	現状維持	

施策の内容評価シート（令和5年度分）

025-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
025-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
025-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		
025-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		（千円）		

※実施評価（計画どおり実施したか）…◎=計画を達成（100%以上） ○=概ね計画どおり（80%以上～100%未満） △=計画を下回った（50%以上～80%未満） ×=計画を大きく下回った（50%未満）
※事業評価（効果があったか）…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない
※今後の方向性…（さらなる）拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価

	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

4 今後の方向性

	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況（実施評価）、事業対象者への効果（事業評価）の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。
※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	A	A	A				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）の本施策の内容に関する推移を示します。

.